

研究主題「Well-being を高めるための道徳教育の研究」

～人と協働し、社会全体の Well-being を高めるために～

埼玉県立新座柳瀬高等学校

1 研究主題の設定理由

新型コロナウイルス感染症の拡大により教育活動に様々な制約が課されたことは、生徒の人格形成にネガティブな影響を与えたことが本校生徒と保護者対象のアンケートから明らかとなった。また、本校の幸福度の調査（下記）では全校平均が 6.08 となっており、デジタル庁による全国的な若年層の結果と比較してもやや低い実態が見られた。社会の価値観の変化や生徒を取り巻く環境の変化の中で、生徒の Well-being を高めていくことが大きな課題となっており、本研究主題を設定した。

【調査】実施日 2024 年 5 月 7 日 回答者数 517 無回答 6 有効回答数 517

あなたが考える最高の人生と最悪の人生があるとして、あなたは現在どの位置にあると感じますか。「最高の人生」を 10、「最悪の人生」0 として、当てはまるものを選んでください。

2 研究の仮説

- (1) 考え議論する道徳教育を通して、生徒の Well-being を高めることができるのではないかな。
- (2) 講演会等において、他者の生き方やその時の心情を知り、幸せな心の在り方や心がけを考えることを通して生徒の Well-being を高めることができるのではないかな。
- (3) 読書活動の推進により、生徒の Well-being を高めることができるのではないかな。

3 研究の経過

時 期	内 容
4 月	インターネットと Well-being（スマホ安全教室）
5 月	Well-being 実態調査①（身体測定時の質問紙調査）
7 月	職業生活と Well-being（道徳教育講演会①） 読書活動と Well-being①（司書講話）
9 月	Well-being 実態調査②（心身の健康と Well-being 診断） 読書活動と Well-being②（司書講話）・校内研修
10 月	性教育と Well-being（道徳教育講演会②）
11 月	公開授業 Well-being を高める道徳教育 『明日をめざして』を活用した道徳教育（道徳教育講演会③）
12 月	「心の扉が開くとき～旅立ちの日に通して～」・集団生活と Well-being 健康と Well-being（薬物乱用防止教育）
1 月	Well-being 実態調査③（生徒・保護者向け学校自己評価アンケート等）
3 月	人権教育と Well-being（人権教育講演会） 読書活動と Well-being③（司書講話）

4 研究の内容

(1) 実態調査

生徒の Well-being を高めるための心の在り方として、前野隆司氏（慶應義塾大学大学院教授）が述べる心の在り方の 4 つの因子①「やってみよう」②「ありがとう」③「なんとかなる」④「ありのままに」を参考に、実践を行うことにした。まず生徒の実態把握のため、4 因子に関連させた質問を 3 つずつ計 12 の質問を作成し、5 件法にて調査を行った（7 月実施 563 名解答）。調査結果から、③「なんとかなる」に関連した「自分の将来が明るいと思う」という質問に対する回答、及び④「ありのままに」に関連した「今の自分が好きだ」という質問に対する回答が「どちらともいえない」という中程度以下のネガティブな回答をした生徒が約半数いたため、様々な取り組みにより改善を図った。

(2) 講演会の実施

① 道徳教育講演会

7 月 16 日（火）に所沢おおぞら特別支援学校新座柳瀬分校の社会人特別非常勤講師の浅利慶治氏を講師に招き講演会を実施した。講演会の前に各担任で道徳の授業を行い、生徒に考えさせた上で実施することで、講演会に主体的に臨める環境を整えた。「挑戦」をテーマに、浅利氏が料理人になるまでの苦労や料理に対する愛情、仲間と協働し乗り越えた経験等の話から「ありがとう」や「やってみよう」という心の在り方を学ぶことができた。



② 性教育講演会

10 月 5 日（土）に産婦人科医の高橋幸子氏を講師に招いて性教育講演会を行った。性に関する様々な知識を率直かつ具体的に伝えてくださるとともに、性的同意などの近年取り上げられる諸問題にも、リーフレットを用いて伝えていただいた。生徒の未来に繋がる確かな知識を得ることができた。

③ 夢と豊かな心をはぐくむ講演会

12 月 13 日（金）にリオデジャネイロオリンピック競泳女子日本代表の青木智美氏を招き、講演会を行った。青木氏が世界大会直前に「なんとかなる」と思えるようになったのは、それまでの努力からくる自信があることを知り、心の在り方を支える具体的な行動を学ぶことができた。



〈様式2〉 埼玉県道徳教育研究推進モデル校 令和6年度実績報告書

④ 道徳教育講演会

12月18日（水）に「旅立ちの日に」の作曲者である高橋浩美氏を新座市民会館に招いて講演会を行った。「ありがとうを伝えよう」というテーマでの講演に加え、歌唱指導が行われ、最後に弾き語りが披露された。感動的な1日となっただけでなく、生徒の振り返りには、「合唱部が潰れてほしくないという先生の諦めない気持ちがあったからこそ、この曲ができたのだと思いました」とあり、生徒の心に響く、充実した講演会になった。



(3) 図書館連携事業

Well-being を高める方策として「図書に親しむこと」を挙げ、学校図書館と連携して各取り組みを行った。

- ① 司書による読み聞かせ（学期末終業式にオンラインで実施）
- ② 教科連携（国語科、まわし読み新聞）
- ③ パーテーションを活用した学習ブースの設置（予算で購入）



(4) 道徳の授業（公開授業）

11月28日（木）に公開授業を実施した。学年別の主題を設定し、全クラスで授業を行った。近隣の小中学校や他県からも参観いただいた。1年次はNHKの動画教材を用いて「相互理解」について、2年次では読み物資料を用いて「感謝の気持ち」について、3年次では「生命の尊さ」を主題として、出生前診断を題材にジグソー法での授業を行った。県の道徳教材「明日をめざして」や文部科学省の資料を参考に、全クラス担任が一工夫加えて授業を実施した。一例としては、ロイロノートを活用して互いの意見を共有し、多様な考えとそれを支える心や価値観の違いを知り、自身の在り方生き方を考える場を作った。出生前診断について受けるかどうかの意見が分かれ、生徒の葛藤する姿が見られた。



〈様式 2〉 埼玉県道徳教育研究推進モデル校 令和 6 年度実績報告書

(5) 教職員研修会の実施及び視察関係

① 教育実践研修会

10 月 3 日（木）にぼうず教育実践研究所より磯村元信氏を招いて、「生徒のための学校づくり」について学んだ。



② 多文化共生のための研修会

1 月 8 日（水）に日本語支援員の青木麻衣子氏と戸田翔陽高等学校金子智教頭（オンライン）に講師を依頼し、外国にルーツをもつ生徒の Well-being を高めるための研修を実施した。

③ 視察関係

視察日	訪問先	内容	参加者
8 月 9 日（金）	飯能高校 すみっこ図書館	図書館視察	委員 4 名
11 月 19 日（火）	ふじみ野市立葦原 中学校（モデル校）	道徳教育公開授業参観	委員含む 3 名
11 月 21 日（木）	神奈川県川崎市	全日本中学校道徳教育 研究大会	委員 1 名
12 月 3 日（火）	大宮東高等学校 （モデル校）	道徳教育公開授業参観	委員 3 名
12 月 19 日（木）	群馬県立渋川女子 高等学校	道徳教育公開授業参観	委員 1 名

5 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

2 学期に実施した実態調査（12 月実施 約 500 名回答）では、④「ありのままに」に関連した「今の自分が好きだ」という質問に対して、「そう思わない」というネガティブな回答が約 3 % 減少した（人数にして約 20 名）。他の質問についてもおおむね変わらないか、ややポジティブな回答が増えた。また、「規律ある態度」として、相手の心情を考えた上で丁寧な言葉遣いをするなど優しく素直な態度を育成することができた。教職員の成果としては、道徳教育を通じて、市内の小中学校や県内外の高校と交流が図れたことは特筆に値する。今後もこうした交流を通じて道徳教育の充実に努めていきたい。

(2) 研究の課題

今年度様々な実践を行ったが、それを単発的なものとせず、次年度以降はさらなる普及・定着を図りたい。また、今年度購入した展示パネル等を用いて研究成果や生徒の意見等を校内外に積極的に示していきたい。